



令和8年5月25日（月）、北三沢地区にて三沢市立おおぞら小学校による田植え体験学習が行われました。

北三沢地区は、三沢市北部に広がるラムサール条約登録湿地「仏沼」の西に位置しています。湿地で繁殖するオオセッカ等の野鳥に配慮しながら、平成22年度から27年度にかけて、ほぼ休耕地だった約100haの水田を大区画ほ場に整備した地区です。

おおぞら小学校では、同地区の担い手である農事組合法人「フラップあぐり北三沢」やJAおいらせ青年部、北三沢土地改良区の協力により、平成29年度から本地区で農作業体験を実施しています。去年は全校児童が参加していましたが、今年は4年生以上の計47名が参加し、田植えを行いました。5年生は総合学習の一環として今後も稲作について学んでいきます。

児童たちは、苗を受け取った後、しっかり説明を聞きながら一斉に苗を植えていました。手持ちの苗が無くなると、苗をごそっと児童たちが上手にキャッチし、引き続き苗を植えていました



【田植えの仕方を教わります】



【苗を受けとって・・・】



【田植えの様子】

今年は苗を植える目印をつけたことで真っすぐきれいに植えることができました。当日は快晴で田植え日和となり、参加した児童たちは「苗は3本、心は1つ」のスローガンの下、苗の束を丁寧に取り分けながら苗を植えていました。



【田んぼの泥に苦戦する様子】



【足についた泥を洗って・・・】



【ありがとうございました！】

秋には児童たちが自分たちで田植えした稲をみんなで収穫する予定となっています。今回の田植え体験を通して、児童の皆さんには土に親しむ楽しさや、食べ物のありがたみを学んでほしいと思います。



【稲作体験の旗】



【きれいに植えられました！】

関連事業：中山間地域ふるさと活性化事業（通称：ふる水基金、棚田基金）
<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/noson/hurumizutanada.html>